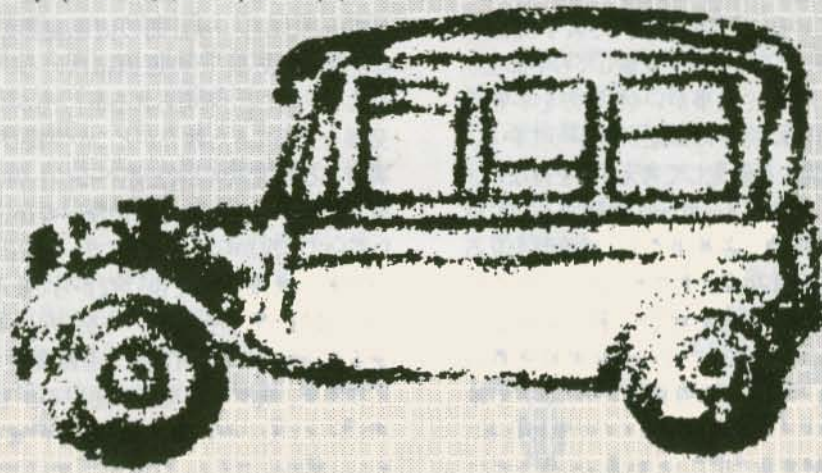




# 流星

第15号(OB会誌第2号)



## 目次

	題字	河村芳平先生
	イラスト	伊東 (子44)
巻頭言 本年度の就職担当教官として	自動車部顧問	原田 (教授) 2
自動車部OB会に寄せて	OB会会長代行	廣田 (電29) 2
自動車部の現状	自動車部主将	西野 (機3回生) 4
活動報告・年次計画		4
部員名簿		5
OB会連絡担当挨拶	自動車部OB担当	石丸 (機1回生) 5
新部員・入部の動機、決意など	自動車部1回生	5
特集「三郎さん」		
三郎さんを囲む会・報告	自動車部主務	日高 (物3回生) 6
徳尾モータース社長プロフィール		6
三郎さんとはこうして知り合えた	42年度主将	伊東 (子44) 7
私のパリダカ	45年度主将	川越 (化47) 7
「徳尾三郎さん特集」に寄せて	49年度主将	坂井 (機52) 8
徳尾三郎さんとの思い出	55年度整備委員長	白水 (子57) 9
追悼・伊藤東一君を偲ぶ	40年度主将	尾崎 (化42) 9
自動車部OBの皆様へ	故伊藤氏夫人	伊藤 10
地区報告 関東地区自動車部OB会	関東地区OB会副幹事	川崎 (化32) 10
地区報告 中京地区自動車部OB会	中京地区OB会幹事	中野 (キ25) 11
部誌「流星」バックナンバーのご案内		11
OB会総会告示	OB会会長代行	廣田 (電29) 12
総会お知らせ		12
準備会報告	OB総会準備会	前田 (鉦32) 12
決算報告(OB会・流星14号決算・15号予算)	編集・地区副幹事	嘉村 (化33) 13
思い出のアルバム	写真提供	六代 (制40) 13
会員名簿・役員名簿		14

九州工業大学貴善会自動車部  
明専・九州工大自動車部OB会

## 本年度の就職担当(機械工学教室)教官として

責善会自動車部顧問 原田

昨年12月に就職業務を引き継いだ。就職活動の早期化と共に引き継ぎ次期も早くなっている。原稿執筆の6月27日の時点で、院生、学部生共に8割強内定で、昨年と傾向の違いはない。最近の傾向として、学部生の就職が以前と比べ、悪くなっている。それというのも、大学院進学率が50%を越える今日、どこの企業を受験しても学部生、院生入り乱れての競争になり、人事がいくら双方を平等に扱うといっても、結果的には院生に軍配が上がっている。送り出す側も作戦的に院生を優先して考えざるを得ない。

今年は例年に比べ、自動車メーカーに就職する学生が多く、調整に少々手間取った。各社の今3月期決算を見ると、株価下落の評価損を組み入れたため、総じて業績不良企業が多いが、株下落の要因を除くと、製造業の収益は悪くはないようである。自動車メーカー各社が好決算のため、自動車産業が唯一の勝ち組の様相が強く、学生諸君の就職希望先の偏りもそれを反映したものと思われる。ただ、送り出す側の管制官役として、自動車メーカーだけでなく、広く目を開いているいろいろな業種にチャレンジして欲しかった。

話は変わるが、今年の自動車レースにおける日本選手の活躍は近來まれに見る快挙である。まさか阪神タイガースのぶっちぎりの快進撃と関係ないと思うが、1月のDakhar rally における Pajero の増岡選手の優勝、Indy 500 における服部選手(5位)、高木選手(12位)の活躍、Le Mans での Audi Sport Japan Team Goh (Audi R8, 5位)、Kondo Racing (Dome S101 Mugen, 12位)、素晴らしい一語につける。過日NHKの特集で、Toyota がF1レースに参戦し、Le Mans でできるだけ早く優勝するため、Koeln 郊外に研究所を創り、世界中から技術者を集めて研究を進めている姿が映し出された。

今や我が国は単なる自動車の生産大国だけでなく、自動車レースや運転技術等のソフト面でも世界トップに躍り出ようとしている。人馬一体という言葉が相応しいかどうかは別として、車そのもののハード+ドライバーの精神面、

戦略、等々のソフトの調和は今後益々重要視され、単にレース場だけの世界だけでなく、地球に優しい車の設計においてもきっと生かされるものと期待される。

最近注力している研究テーマの1つの工学教育に関連して一言。6月一ヶ月間の凶悪犯罪の発生件数を見てみると異常である。その原因にはいろいろな社会的要因が絡んでいることと考えられるが、とにかく明治以来我が国の発展を支えてきた教育がどこかで綻び初めていることは確実である。ここでどくどく述べるつもりは無いが、とにかく公衆道徳がいったいあるのかないのか、車の運転手を観察していても次から次へレッドカードを出したくなる。酒気帯び運転、携帯電話を掛けながら(最近ではメールしながら)の運転、チャイルドシートをしない若い母親、無灯火で走る車、たばこのポイ捨て、進路変更等のサインを出さずに走る車、横断道路を渡る途中の歩行者に警笛を鳴らす車、等々、そのけそのけお車が通ると一茶もびつくりしそうな世の中である。性善説が期待できたのは少し前までの話で、車に関連する事項のみ取り上げても上記の有様で、ここ1、2年の総犯罪件数の急激な増加及び検挙率の低下を見ると、確実に物騒な世の中に向かいつつあること明々白々である。

人や地球に優しいという言葉が時代を表すキーワードになっているが、教育力の低下により自己責任が負えず、自己管理できない大人や若者が今後単調増加する事を考えると、技術者は何を設計するに際しても人的要因を考慮した安全設計をすべきである。具体的には、性善説から性悪説に切り替えて発想することが大事である。ただし、行き過ぎると、今度は工業倫理が幅をきかすつつある世の中であるので、性悪説とバランスのとれた発想が必要である。

最近読んだ論語の本に「愆」という言葉が書かれていた。他人のことを思いやる心という意味だそうである。明専魂の徳に通じる考えである。技術者は恕と性悪説双方を睨みながら世直しの設計に励んで欲しい。

(工学部機械知能工学科教授)

## — ご挨拶 —

### 自動車部OB会に寄せて

OB会会長代行 廣田 (電29)

私は九州工大の自動車部では幹事をやったり割合活動した方だったと思うが、卒業以来あまり自動車(部)とは縁がなかった。「流星」を贈って貰ってはいたが、ラリーの激励会の案内などを受けても仕事の都合で出られなかつ

たり、岡山のOB会ツアーも出てみたいと思ったが果たせなかった。たまたま自動車部史の話が嘉村君からあり、名古屋駅の近くで仕事をしていたので、中京地区の部史座談会のお世話をさせていただいて、その後東京の会合に

も出席してきて、自動車部時代が懐かしい思いがしてきた。

思えば、大学の入学式のあと、責善会各部の入部勧奨の時、自動車部は入部希望者をトラック(彗星号)に乗せて寮まで運んだが、そのときは入部せずにいた。同じクラスのYくんが寮の部屋に遊びに来て、自動車部を自慢げに話し入部を勧められて、後になって入ったのだが、夏休みの新人部員合宿講習訓練には間に合った。「車庫が開いているときは何時でも出てこい」と言われ、比較的真面目に整備に出た方で、2年生から幹事をやらされた。運転免許を早く取られたが、コースを間違えて1回目は失敗し2回目でやっと6月に合格した。自動車部では運転でも比較的よく乗った方だが、それでも卒業までの走行キロは4000キロを超えてはいない。

卒業後国鉄に入社したが、その入社面接試験で、得意なものは何かを訊かれ、自動車運転免許——しかも普通運転免許(当時の)——を持っていることを自慢げに言ったことを覚えている。入社した最初の1年間、国分寺にある中央鉄道教習所と言うところで、全寮制で教育を受けたが、同期仲間51人のなかで自動車運転免許を持っているのはただの2人だけだった。しかももう1人は国鉄職員であって西那須野の自動車営業所に勤務し、業務余暇学生として東北大学を出て本社採用を受け直した男であった。

後日、本社の課長をしている時、採用試験の試験官を2回ばかりやったが、あの時を思い出し、逆に「自動車運転免許を持っていない人は手を挙げる」とやってみた。約50人のなか片手で数える程しかいかなかった。「大学を卒業するときには自動車免許を…」と言う時代になっていたのである。

当時国鉄は戦後の疲弊からようやく立ち直り、輸送力増強、電化・ディーゼル化のいわゆる動力近代化に取り組んでいたが、一方鉄道斜陽論と言うのがあって、自動車・道路の発達によって輸送が食われ、今にアメリカの様になると言うものだった。日本の新幹線をはしりとして欧米を含めて鉄道の見直し復権につながったのではあるが、一部は事実その通りになって、地方交通線はどんどん廃止され国鉄も民営化してJRとなった。航空機の発達も含めて時代の流れで変革は当然のことで、三者それぞれの特徴をいかして役割を分担しながらもサービス等の熾烈な競争をしている。

この様に、当時は自動車の話をする時「敵だ」と言う人もいた。だからと言うわけではないが、とうとう国鉄を卒業する時まで、いわゆるマイカーを持たなかった。勿論働く踊り場が鉄道そのものであり、財力の問題もこれに在りだったからではあるが…。

自動車部を卒業した頃、将来自動車が持てるようになったらどんな古くなっていても1950年のスチュードベーカー(前部が飛行機の様な奴)を買おうと言っていたものだが…。

国鉄最後の勤務が新幹線の博多総合車両部長であっ

た。入社以来あちこちと転勤が多かったのに大阪から西に出たことは一度もなかったものだが、いみじくも最後が母校の近くになったのも何かの因縁かも知れない。職員の中に、自動車好きが集まってドライブしたり休日にお休みの整備工場を借りて車をいじったりするグループがあって、東京などから転勤した人に片っ端から車を世話して持たせていた。他の酒の席か何かで、ゴルフの練習に行くのにバイクでも買おうかなと言ったのを聞きつけて、「部長が二輪車で事故でも起こして怪我をさせてはいけない。世話をするから四輪を持って…」と。かって車を世話して貰った現場の若い所長が東京に転勤して車をおいて行き、廃車処分を頼んだのがあって、この車を使えと勧められた。車検期間までの他人の名義の借用だ。10年くらい古いダイハツフェローマックスだった。東京の彼に電話したら「部長！あんなボンゴツに乗るのですか？」と。

当時福岡市は水不足で、新幹線も一部小郡駅で途中給水をしたり知恵を出して節水に協力したものだが、この車を運転して、よくダムの貯水を見に行ったりした。坂道で二輪車などにスイスイと追い越され、自分の車の青い煙にも追い越されたりして、さすがに力不足を感じたが、なかなか良く走った。自動車部時代の整備を思い出して、ドアの腐食穴をビールの空き缶を切って張ってパテで埋めたり、あちこちいじって楽しんだ。廃車は勿体ないから自分の物にしたいと言ったら「二ヶ月間車なしで我慢しろ、良い出物があるから…」と。それは新車を買ったA君からB君、B君からC君へと下取り譲渡し、廃車予定のC君の50年カローラ2ドアクーペが私に回ってきたのだった。車検期限の切れる頃、国鉄を退社する事になり、とうとう貰い受けることにし保険料相当額と車検料は払ったがそのほかは無料で自分の物にした。車検を例のグループの世話で博多で行い、フェリーで東京まで送って貰ってフェリー埠頭まで受け取りに行き、千葉の陸運局で諸手続を自分でした。実質的に車のオーナーになったのは国鉄を辞めてからである。

博多勤務の間に一度、私が自動車部時代にお世話になった年次前後のOB諸兄に国鉄宿舎に集まって貰い、大いに飲み一夜愉しく語り明かした事がある。

自動車部時代、車庫にいるところに、たまに見ず知らずの人がやってきて、それが明専時代の自動車部のOBだったりして、きわめて懐かしそうに一度ハンドルを握らせてくれと言われた事も間々あった。私自身も東京に出てきたときは厚かましくも「いすず」におられた先輩を訪ね、夏の暑い日だったか、冷たい冷麦をおごってもらい嬉しかった事を覚えている。

自動車部のOB総会が本年度開かれることになったが、此処まで進めてこられた関係の皆様感謝申し上げたい。自動車部OB会としてのあり方などいろいろ議論して貰いたいものだ。明専会に地区の支部や、職域など年次を越えたあつまりや活動があり、又年次ごとのグループでの

活動もあるようである。最近地区での会合に出てみて、せいぜいプラスマイナス2年が知っている間柄に過ぎないのに、話をしているうちに何となく近親感を感じるものである。

ともあれ、皆様の協力により総会の成功と今後の自動車部及びそのOB会の発展、さらには皆様のご健康を祈るものである。

— ご挨拶 —

「自動車部の現状」

責善会自動車部主将 西野 (機械3回生)

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

現在部員十七名(内一回生五名)で日々活動しております。昨年一番多いときには八名もいた現二回生もだんだん減り、残念ながら一人を残すのみとなってしまいました。それもひとえに我々先輩の努力不足と反省しております。今年は、現在五名の新入部員を迎え、近年の部員数減少を抑え、部を盛り上げるための活動を考えている所です。

次に活動についてですが、年間行事としてはラリー開催、工大祭、学生対抗などや、個人競技ではラリー・ジムカーナ・ダートラなどの競技に参加しております。

先日は六月二十八日に行われた九州インカレダートラに初めて参加し、活動の幅を少しだけ増やすことが出来たかなと感じております。

工大祭は例年通り模擬店でたこ焼きを焼く予定です。OB会総会が工大祭期間中に開かれるということなので、近くへお越しの際にはぜひお立ち寄り下さい。

最後に、今回この部誌の発刊が予定よりかなり遅れてしまった事を申し訳なく思っております。今後は予定通りに事を運べるよう部誌担当とともに努力いたします。その際、ご寄稿などを依頼させていただく事があるかと思いますが、そのときはよろしくお願いいたします。

— 報告 —

活動報告・年次計画

2002・03年成績

∞ラリー

…02年 4/21 KOC チューリップラリー	C2	1位
5/11~12 RC-大分サファリ in 九州	C2	1位
6/16~17 グラヘル マインドラリー	A2	1位
11/16~17 Moon ConaS 2002	オープン	2位
年間:JMRC 九州ラリー Jr.シリーズ	A2 Dr. チャンピオン	
	Nv. チャンピオン	
	C2 Dr.	3位
JMRC 九州ラリー選手権	C2 Nv.	3位
JAF 全日本ラリー選手権	A4 Nv.	5位
…03年 4/6 KOC チューリップラリー	C	1位
6/21~22 RC-大分サファリ in 九州	C	1位

∞ダートトライアル

…02年 5/26 日刊スポーツ杯大学対抗		
AFW ダートトライアル大会	A2	1,2,3位 団体2位
…03年 6/28 九州インカレ ダートトライアル		団体5位

∞ジムカーナ

…02年 12/22 山口大学常磐祭ジムカーナ	S&B	2位
…03年 2/9 九州地区 Jr.チャンピオンシリーズ	#1 N2	3位
7/6 " "	#6 F2	1位

平成14年行事・活動報告

10/19~20	KIT NIGHT RALLY
12/30	OB会:新車庫の披露を兼ねて、OB会(自動車部主催)を開きました。OB14名、部員10名が出

席しました。新車庫でまず自己紹介をしたあと懇親会の会場へ移動、OBの方と部員が親交を深めました。その際、松尾先輩、藤田先輩と、伊東先輩のご遺族から懇親会経費の一部にと、お志しを頂きました。



懇親会場前にて 02.12.30

(参加者:敬称略)松尾(キ25) 前田(鉦32)嘉村(化33) 野口(機38) 松本(電39) 尾崎(化42) 藤田(電) 伊東(子44) 八木(開45) 尾辻、中村(子57)小川、御領(機II 63) 山下(金 H1)現部員10名

平成15年度年行事・活動計画

4月	入学式・部員勧誘
5/17~18	ACK SPRING RALLY
6/28	九州インカレダートトライアル
11/22~24	工大祭 (11/23 OB会総会)
12月	山口大学常磐祭ジムカーナ
3月	追い出しコンパ・卒業式

自動車部部員名簿 (03・9・1現在)

役職	氏名	学科学年	出身校	氏名	学科学年	出身校
監督	安倍	電気・4	県香住ヶ丘高(福岡)	石塚	機械・M1	県立甲南(鹿児島)
主将	西野	機械・3	県松山南高(愛媛)	西本	物質・4	県長崎東(長崎)
会計	田口	機械・3	県口加高(長崎)	犬丸	機械・4	県香椎高(福岡)
ラリー委員長	松原	機械・3	久留米工大付(福岡)	西田	機械・2	県八代高(熊本)
主務	日高	物質・3	創成館高(長崎)	佐藤	機械・1	県安芸高(高知)
OB会連絡	石丸	機械・2	県佐賀西高(佐賀)	徳永	機械・1	県筑紫丘高(福岡)
	松本	機械・M2	県済々黌(熊本)	今井	物質・1	県八幡高(福岡)
	村井	機械・4	大学検定(福岡)	泥谷	機械・1	県北筑高(福岡)
	森	機械・M2	県新見高(岡山)	藤川	機械・1	県北筑高(福岡)

—ご挨拶—

OB会連絡担当のごあいさつ

機械2回生 石丸

このたび、日高さん(主務・物質3回生)から、OB連絡員を引き継ぎました機械知能工学科・機械科学コース2回生石丸昌宏と申します。よろしくお願ひ致します。

担当します。原稿・短信等お待ちしております。

今後「流星」やOB会に関する自動車部の窓口は私が

—ひと言—

新部員・入部の動機、決意など

自動車部一回生

佐藤 (機械)

自分が自動車部に入部しようと思ったきっかけは、元々自動車が好きだったこと、自動車競技に興味を持ったからです。

けたいと思います。そして自分の運転技術があがるように努力をして事故などを起こさない優良な運転者になれたらいいと思います。

これから自動車部員として活動していく中で、今までより深い自動車に関する知識を身につけると共にジムカーナやラリーなどの競技にも積極的に参加していきたいと思っています。また、活動を通じて得た物は、社会に出た時にもきっと役に立つと思います。自分を高めていく意味でもガンバッテいきたいと思っています。

自動車部が主催で行うラリーなどの行事にも積極的に参加していきたいです。

泥谷 (機械)

自分が自動車に興味を持ったのが中学生の時でした。中学・高校と自動車に関係ある部活に入ろうと思っていましたが、そんな部活はありませんでした。そして大学に入学して、自動車部の存在を知ったときもうこれしかないと思い入部しました。

徳永 (機械)

この度、自動車部に入部しました。機械知能工学科の徳永英之と言います。

自分は将来自動車関係の仕事に就職したいと考えています。この自動車部で一つでも多くのことを学び、将来のことに役立てていきたいと思っています。

私は高校生のときに興味をもつようになり、将来車に関係した仕事に就きたいと思うようになりました。そして大学に入学して、車の整備を勉強しようと思い自動車部に入部しました。

藤川 (機械)

僕は高校の時に車のレースのゲームを買って、その中でかっこいい車を見ているうちに将来は自動車会社に入ろうと思っていました。

これからは、車についてさまざまな知識と技術を身につけ、またジムカーナやラリーなどの競技などにも出場して運転の技術の方も磨いていきたいと思っています。

大学にはいると自動車部のポスターが気になって友達と車庫を訪れて見るとエンジンを降ろしたり、車の整備をしていました。それを見て自分で車を整備出来るなんてかっこいいなと思いました。そういうわけで僕は自動車部に入部することを決めました。

今井 (物質)

自分が自動車部に入部した理由は自動車に興味があったからです。あと、自動車の整備に関する知識を身につけて今乗っているAE111 トレノをできるだけ長い間乗り続

自動車部に入ったからには絶対整備を完璧に出来る人になりたいです。

## 三郎さんを囲む会報告

自動車部主務・OB担当 日高

(物質3回生)



「三郎さん」を囲んで 03. 7. 21

徳尾三郎氏には、昭和30年代後半以降の自動車を陰になり、日向になり支えていただき、また、ご指導をいただいで今日に至っています。私たち現役部員も日頃は「三郎さん」と気軽に呼ばせていただいています。

その三郎さんに、ご無沙汰が続いている“近くて遠い”OB諸氏が去る7月21日にお集まりになり、三郎さんをお招きして、「三郎さんを囲む会」を催しました。参加者は徳尾三郎さん、中村（子・55年度書記）白水（子・55年度整備委員長）、尾辻（子・55年度主将）、小川（機Ⅱ・56年度OB担当）、山本（機・57年度整備委員長）のOB諸氏。そして現役生からはOB担当の日高がご一緒させていただきました。

日頃のご無沙汰に懐かしさも倍増して、色々な話に花が咲きました。昔お世話になった頃のお話、久しぶりに三郎さんへ連絡を取られた時のお話等々、皆さん学生時代を思い出されてか、笑い声の絶えない会場となりました。

三郎さんは学生時代フロンティアスピリットに満ち溢れ、ご自身の将来を新天地に託すべく、ブラジルへの移住を

決心され、許可まで貰っていたと言うお話を初めてご披露されました。お母様の最後の説得で思い留まり、郷里の整備工場を継ぎ、いろいろな歴史を経て現在に至っているとのことでした。皆さん初めて聞かれたとの事で大変驚かしていました。

また、自動車整備振興会の調査活動の一環としてアメリカを訪れた際に、自動車の文化と歴史の重みの違いを肌身で実感されたそうです。アメリカでは車検が無く、車はボロボロになっても動かなくなるまで需要があるとのこと、奥様と二人で渡米しても三郎さんご自身の右腕（技術）があれば暮らしていけるのでは？と、アメリカに様々な可能性を感じられたそうです。

日本の自動車ラリーの草創期より常に第一線を歩まれ、モータースポーツの発展を牽引してこられた三郎さんですが、今でもチャレンジ精神とフロンティアスピリットを失わない姿に、見習うべきところの多さを強く感じました。

今回同席させていただき色々なお話を聞かせていただきました。改めて感じたのは三郎さんの人脈の広さです。三郎さんは折にふれて私たちに知恵と勇気を与えてくださいます。多くの人に慕われるのもうなづけます。そのお人柄は今、ご子息の慶太郎さんに受け継がれているようです。KITにとってACKは親であり、三郎さんは自動車部員の第2の親と言っても過言では無いと思います。

時代が変わり、自動車部も少しずつではありますが変化しています。それでも変わらない情熱を持ちつづけてこれからも自動車部を大切にしていきたいと思っています。

最後に、三郎さんの信条としてのお言葉を頂いたので紹介したいと思います。

「どんなに人事を尽くしても、必ず問題は生じる。問題が起こった時にどう対処するかで、そのひとの価値が決まる。」

## プロフィール・徳尾モータース社長・徳尾三郎氏

編集部

昭和8年戸畑に生まれ県立戸畑高校・明治大学卒業。家庭の事情で海外への熱い想いを断念し家業の自動車整備工場を継ぐ。

昭和37年頃から各地のモータースポーツに関わり、昭和40年以後は工大ラリー（後のKITラリー）の指導のほか内外のモータースポーツの発展に寄与、特に九工大自動車部員を氏が主催するラリーなどに参加させるなど公私ともに現役部員への指導・助言と物心両面の援助を与えた。

JMRC九州地区協議会理事長その他全国、九州地区な

どの役員を歴任。年末恒例の「餅つき会」など卒業後も自動車部OBが「三郎さん」を中心に交流を続けているのも在部中に一方ならぬお世話になっていたからであろう。

平成11年の「部史」編纂に当たり、昭和40年頃以降卒業のOBは、自動車部の大先輩は知らなくても、「三郎さん」なら知っている人の多いことが分かった。つまり、どのOBより一番良く九工大自動車部をご存じと言うことである。今回「三郎さん特集」を組んだのも、その辺の事情とご理解ください。

## 三郎さんとはこうして知り合えた

43年度主将 伊東 (子44)

九州工大では、明専以来の歴史を誇る学生寮が完備されていました。

責善会の各部も部室を忘身寮に置いて活動していましたが、これら寮生のワイシャツやブレザー等のクリーニングをしてきていたのが「共栄舎クリーニング」さんでした。

小芝町に工場を持ち毎日各寮を廻って受注・配達をされていたのが「共栄舎のオバチャン」でした。オバチャンはクリーニングのプロとでも云いますか、我々の出すシャツは汚れ具合で顔を見なくても持ち主が分かったそうで、赤い糸で小さなマークを付けていただけで、何百人といる寮生のシャツを間違いなく届けてくれる不思議な能力をもっていました。今でも大阪でご健在とのことですよ。

そのうちクリーニング工場と共栄舎の取次店を巡回する集配車の運転を自動車部員がアルバイトで手伝う機会が増えてきました。小倉から黒崎、折尾まで毎日かなりの距離を走っていましたが、やがて忘身寮を出た私が工場の二階に下宿させてもらって午後の集配に営業所や取扱店廻りをやることになりました。

こうして共栄舎の一員となった私は工場の皆さんやオバチャンとそこそ長男で工場を切り盛りされていた宮川信也さんとも家族同様のおつきあいをさせていただきました。その工場の車両の導入や、整備などすべてをお任せしていたのが「徳尾モータース」でした。

そうこうするうちに代々の自動車部の部員が住み込みのアルバイトとなるのが続き、宮川さんの紹介で部車の整備等も「徳尾モータース」で面倒を見てもらうこととなりました。私たちの代はこうした「三郎さん」と九工大自動車部とがお近づきになる橋渡しの初期の頃で、次の八木君、そして次の山本正樹君、又その次の川越君達の時代から本格的なおつきあいになったようす。

その後、九工大の自動車部が「三郎さん」のおかげで、各地のラリーでの上位入賞を果たしたり、KITナイトラリーなどでは未だにお世話になっていることを知り、人と人を結ぶ縁や絆の不思議さを思います。

最後になりましたが「徳尾モータース」と自動車部がいつまでも発展を続けられることを心からお祈りします。

## 私のバリダカ

45年度主将 川越 (化47)

バリダカの仕事を始めて10余年になる。バリダカが好きである。趣味である。

1990年初めてバリダカへ行った。エンジンエンジニアとして、この年、三菱は1台の新型エンジンを投入した。4台の車両で出場したが、3台は従来のバリダカで使用していたエンジン。1台は将来に向けてのテストエンジンであった。軽量化と出力アップを盛り込んだものである。必ず完走させ、良い成績を残すことが、私の任務であった。

このエンジンは三菱のWRC監督でもあるアンドリュー・コーワンの車に搭載した。ゴール前日までは全く何のトラブルもなく、三菱の最上位である4位を走行。ダカールでゴールするコーワンを待った。しかし5位の篠塚が表彰台に乗ってもまだ帰ってこない。次第に不安がつのる。篠塚のゴール30分を過ぎた後、ようやく表彰台に現れた。最終日のこの日、ゴール寸前でエンジンは3気筒になってしまい、ようやくゴールにたどりついたのである。前日までの貯金があったため、三菱の最上位は確保したのではあるが。

コーワンの車が到着し、表彰台に上がった時には涙が押し寄せんばかりに出てきた。新開発のエンジンがその使命を十分に果たしてくれたことの喜び。自分がその表彰の場

に同席している喜び。等々様々な思いが重なった喜びの涙であった。モータースポーツに従事して最高の感動であった。

この感動がモータースポーツへの関わりを一層深めた。その後数年はエンジンエンジニアとしてバリダカに4回。コーディネータとしてさらに4回バリダカに行った。モータースポーツのエンジニアとしては42歳を過ぎた頃に限界を感じた。また、バリダカに行くようになって、外国人をはじめ、マスコミの人達などとの交流により、本当に自分自身は技術者が合っているのか、コーディネータの方が適正ではないかと感じるようになり、進む道をコーディネータ側へ変換した。たまたま、当時のラリーアートの社長にお願いした結果、受け入れて頂き、94年以降現在もバリダカの総合マネージング(予算計画、実行、現地との連絡、チームの総合管理)を行っている。

エンジニアとしての限界を感じてもモータースポーツを離れようとは思わなかった。「好きだから」であろう。だから、今も楽しく業務を進めている。多少、問題が起ころうとも必ず「何とかしよう」と考える。苦しいと思うことはない。「きっと何とかなる」と前向きに考え「何とかする」「何とかさ



せる」方向に結論を導き、バリダカ活動を続けている。

好きなことには誰も努力する。これが仕事だから最高である。好きなことは趣味の一部でもある。趣味を仕事としている私。幸せな人間だと思う。

モータースポーツに関与したのは、当然であるが工大の自動車部に入部し、ラリーに参戦しだしてからである。1年生の時から先輩の運転する車にナビとして(当時はマップ読み)同乗し、優勝を経験した。これでラリーが好きになった。私自身は車のメカは好きでなくラリーが好きである。そのうち徳尾モータースに通うようになり、三郎さんとラリーに出るようになった。当時の学生として、裕福ではなかったから、一銭もなしでラリーに出場できる有り難いスポンサーであった。三郎さんとラリーに出て優勝はできなかった。その従業員の今井さんと出て優勝したことはあったが、でも三郎さんとTBKラリーに出場した時、ゼッケンは1番、その番号をもらったときは感動。シードの1番である。当時の三郎さんの有名さに驚いたものである。そのラリーは最終

CP近くまでほぼ減点0であり、優勝できると思っていたが途中で足周りを破損させ、「他の競技者に迷惑をかけてはいけない。リタイヤしよう。」との三郎さんの意見でリタイヤした。ほんのもう少しSSを走れば優勝できていたと思う。今でもその時のことを三郎さんに会うたびに話す。この経験がもっと私をラリーに興味を持たせた。というより、私のモータースポーツの原点がここにあったと感じる。

そして三菱に入社。ここでもクラブ活動でラリーを続けた。篠塚らが、国内ラリーで活躍していた時代に私もその仲間に入ったのだ。その後排ガス規制などでラリー活動は止めたが40歳前になって自分の仕事としてモータースポーツ用エンジンの開発に従事し、現在もモータースポーツを趣味とし、仕事としている。

今後もモータースポーツに関わっていこうと思う。定年になっても何らかの形で永遠に関わっていきたい。

三郎さんが今でも青春の気持ちのままモータースポーツに関わっているのと同様に。 2003. 7. 1

### —三郎さん特集—

## 「徳尾三郎さん特集」に寄せて

49年度主将 坂井

(機52)

「三郎さん、ありがとうございます。」この一言に尽きる。三郎さんとの関わりは、九工大自動車部においてKITナイトラリー開催・運営への指導・アドバイスをはじめとし、5学年の就職浪人中は徳尾モータースでアルバイトさせてもらったり、結婚の折には仲人を務めていただくなど、公私ともに大変お世話になった。

私は1972年に機械工学科に入学と同時に(入学式の翌日)に自動車部に入部し、3学年の1974年は主将を務め、77年3月まで在学(1年就職浪人)した。卒業後、78~84年は(株)日産ディーゼルで小型エンジン設計に従事、その後転職し85~2000年は(株)無限において Honda 車をベースにしたレース車両・レースエンジンの開発やF3、F3000、F1レーシング エンジンの開発・レース活動の現場指揮を行ない、モータースポーツに携わることを天職にしてきた。2001~現在は(株)ホンダ技術研究所にて第3期 Honda F1プロジェクトを推進している。

自動車部に入部した頃の頃に深く印象に残っているのは、時松先輩の車・エンジン談義になるほどと耳を傾け、初めて山岳路ドライブに行ったとき畑中先輩の運転する三菱GTOの後部座席でダート路を、リフトする姿に感激し、牛島先輩・首藤先輩が車を自在に操る運転テクニックに感銘を受けたことなどである。さっそく自分も上手くなろうと、学内での免許取得練習期間中に動かなかった部車セドリックを整備し、まだ不慣れなヒール&トーを使いながら体育館横の直角路を曲がろうとして生垣を引っ掛けて運転練習謹慎処分をくらったりしながらも自動車部活動に

のめり込んでいった。

三郎さんの所には、ACKナイトラリーの手伝いに行っただのが最初だと思う。

本格的なラリー競技、モータースポーツに携わるきっかけとなった。当時ACKメンバーは九州地区を連勝する実力者揃いで、徳尾モータースに出入りするラリー用競技車に目を見張っていた。

こういった周りに刺激されて、同期の白倉君(卒業後は、全日本ラリー選手権に出場するチームのナビを勤めていた)と共同でブルーバード510フルラリー仕様車を購入し、三郎さんから「たんぼぼ」号と名付けてもらい、九州・山陰地方のナイトラリーに出場するようになった。こういった時にも大変サポート頂き、ラリーのイロハから、勝つための know-how まで幅広くアドバイス頂いたのはいうまでもない。

三郎さんは自分でも競技に参加しながら、メンバの指導・競技車両チューニングにも力を入れ、チームの仲間を信頼し、個性を尊重することの大切さを自ら示し、我々にも教えて頂いた。またACKナイトラリー主催競技長としてモータースポーツに携わる者の責任や、モータースポーツに対する情熱や熱意など多くのことを教示頂いた。

私がモータースポーツを天職として働いているのも、三郎さんの教えのおかげであり、モータースポーツへの情熱を絶やさないのは三郎さんをライバルとも思っただけからである。

多国籍のエンジニアが競い合うF1の現場指揮に携わり

ながら誇りに思うのは、私の家族の支えと、源流に九工大自動車部の血が流れていること、多くの同志と三郎さんに知り合えた事である。

この紙面をお借りして皆様、特に三郎さんに感謝申し上げます。「ありがとうございます」と!

03.08.04

## —三郎さん特集—

### 徳尾三郎さんとの思い出

55年度整備委員長 白水 (子57)

徳尾さんが60才を迎えられ、広島県の千代田パークホテルで三郎さんの還暦を祝う会”が平成5年11月27～28日で行われました。

OBの方も遠方より出席され、正確な人数までは覚えていませんが、かなりの参加者で、徳尾さんだったから(その人格に)みんなが集まったのだろうと実感したことが思い出されます。

会ではいつも強気の徳尾さんが本音を交えながらのコメントが印象に残っています。また、次の日に開催されたダート走行会では“タイム”の計測を行い始めたためか、参加者全員がだんだんエスカレートしてきて、走行会がクラブ内部ダートラと化してしまいました。その時、徳尾さんも初めてと思われませんが、奥さんを助手席に乗せてエントラ

ントされました。その時の走りを見ると誰の“還暦を祝う会”だろうかと思わせる内容でした。

徳尾さんは常に何かにチャレンジされ、それは年齢と関係の無いものです。「人はチャレンジ精神を持ち続けているうちは“常に青春”だ」と身をもって示されることに強く心を打たれます。

卒業後も北九州に行くときには、お話を頂けることを楽しみに、必ず徳尾さんの所へ寄らせていただいています。

学生のころの思い出を遡ると、話題は尽きません。また、何時か機会があれば、諸先輩の方々、後輩の皆様を交え、徳尾さんを囲んで語りたいものです。

最後に、徳尾さんの益々のご健勝をお祈りいたします。

2003.7.9

## —追悼—

### 伊藤 君を偲ぶ

40年度主将 尾崎 (化42)



在りし日の伊藤東一氏

昨年末に自動車部OB会の案内を頂いたが、暮れのことでもあり欠席の返事を書いた矢先に八木君(開45)から年末・年始実家(山口県)に帰るのでOB会に出ましようとの誘いがあり前言を翻し急遽参加することにしました。

初めてお会いする大先輩から顔と名前の一致する先輩や今も交流を続けている面々が段々に集まって来て少しずつ自動車部時代のことが懐かしく思い出されようとした時に、OB会担当幹事から「伊藤先輩の奥様からお便りがあり、先月お亡くなりになったそうです。」との突然の訃報に驚きました。あの頑健な君のこと、急には信じられないことでした。近くにいながら卒業以来会うチャンスもなく、今にして思えば実に残念なことです。

自動車部の1年先輩として在りし日の貴君を偲び一文をしたためます。

君は地元の名門東筑高校の出身であり、昭和43年の大学卒業後も地元北九州市役所に職を求めました。地元生まれ、地元で学び、昭和38年の5市大合併で発足した九州初の百万都市・北九州市の発展に生涯を尽くした

生粋の北九州人でした。

君が自動車部に入部を申し出た時のこと、角刈りのよく似合う、がっしりした体躯とその言葉使いから到底新入学生とは思えない風貌だったことを今でも覚えています。

当時は鶴田浩二、高倉健の東映任侠道シリーズが人気を博しており、「花と竜」に代表される地元の川筋気質を地でいくような雰囲気を持っていましたが、実際は部活に勉学に勤しむ真面目な学生そのものでした。

当時を偲ぶに、手元にある流星第2号の君の執筆による全日本学生ラリー全国大会出場記と一緒に参加したメンバーとして当時のことをありありと思い出させてくれます。京都発—鳥取—広島—福岡着の3日間で君は市丸君(制42)と組んで3日目の広島—福岡に出場しました。実に冷静沉着振りが良く出ており、当時の状況が詳細に伝わってくる貴重な文章です。もう一つは第4回工大ラリー(学内ラリーから工大祭行事へ)22チーム参加の記事ですが実にこまめに色々皆の世話をしてくれました。

一方で信じられない反面を持っていました。春休を利用しての遠征(昭和40年関東遠征)のこと。遠征中は禁酒に決まっていたが、遠征先での先輩との交流等1日だけは解禁日でした。この年はいすゞ自動車の最新鋭の藤沢

工場を見学後、ご馳走を振る舞って頂き、禁酒解禁となりましたが、その席で周囲の無理強いから君がお猪口の反対側で舐める如くに飲んだと思ったら、真っ赤になりふうふうと苦しそうにしていたことも強烈な記憶として、今も目に浮かびます。

また、地元出身で自宅通学でしたが、短期間ながら部室(忘身寮)に入寮し、熱心に自動車部の活動に貢献してくれました。当時は日本の高度成長とモータリゼーションの飛躍的転換期で責善会自動車部も今思えば大変な変革時だったと思います。流星5号の「部員名言録」にも部の荒廃に対して君の「如何に後輩を教育・指導するかが欠けている。」と言うのが載っています。工大自動車部の行方(後輩への思いやり)を心配してくれての言葉です。昭和39年入部者は人材が豊富で、だからこそ、部誌の創

—お便り—

うっとうしい梅雨空が、つづいています。お手紙を拝見いたしました。(編集部注ご遺影拝借のお願い)自動車部の「部誌・流星」に、追悼文をお載せいただくの事、主人は「そんな柄じゃないよ」と恥ずかしがりそうですが、なによりの供養になります。厚くお礼申し上げます。

「体をかばいながらではいい仕事もできないし、絶対もう一度元気になるんだ」と市役所を退職し、治療に専念しました。三回目の入院時も「今回も又退院して家に帰れる」と主人も私も信じていましたが、亡くなる十日位前からバタバタと容態が悪くなり、願いは叶えられませんでした。

ふりかえりますと、通算18ヶ月に及ぶ闘病生活でしたがその間一度も弱音をはかず、つらさの余り病院を逃げ出す人もいると言う抗ガン剤の治療も「わしは苦にならんヨ」と積極的でした。

弱音を吐くどころか、私と冗談を言い合い、だじゃれをとぼし、看護士さん達が「伊藤さんの病室に来るとホッとします。」と言う程、明るい病室でした。

—地区報告—

## 関東地区自動車部OB会

平成15年3月28日、4年振りの関東地区自動車部OB会が鳳龍クラブで開催された。

案内はOB会誌「流星」第14号の名簿から関東地区在住会員を丹念に拾い上げ、昭和9年卒の大先輩から平成13年の新人までの67年間に亘るすべてを網羅し100名に出状した。これほどの幅広い年代に一度に案内した事

刊、OB会の発足(規約制定)等ができました。競技大会も全日ラリーで昭和41年9位、42年7位、43年4位と着実に成果を上げることが出来たのは、伊藤君等の入部からの努力の積み重ねと今でも信じています。

いずれ第一線から退き、多少の時間的余裕を持てるようにでもなれば、私も隣接の山口県に住んでおり、ゆっくりと旧交を暖めることを楽しみにしていましたが、それも適わぬこととなりました。

悲しく残念なことです。今はただご冥福を心からお祈り申し上げるばかりです。安らかにお眠り下さい。

合掌

伊藤 君(開43) 平成14年11月17日逝去  
ご遺族

夫人 伊藤 様

## OB会のみなさまへ

故伊藤 氏夫人 伊藤

自分が一生けん命になれる仕事に恵まれ、家族を愛し愛され「わしはなにも心配事がない」と入院中に言える程でした。早すぎましたが幸せな潔い一生だったと思っております。

生前、大学の同級生に「女房と旅行するのが最高のたのしみだ」と話していたそうです。

退職したら、退院して元気になったら、行こうと二人で計画していた土地を少しずつ訪れようと思います。

最後になりましたが、お心づかいに感謝しながら、九工大自動車部OB会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

自動車部OBの皆さんや部活動を一緒に楽しんだ皆さん方にお会いする事がございましたら、よろしくお伝えくださいませ。

時節柄ご自愛下さい。

かしこ

平成15年6月24日

北九州市 伊藤

地区副幹事 川崎 (化32)

は初めてだったが、回答状況は、不明返却:5、出席:22、欠席:33、無回答:41(計101)であった。

当日は、急遽欠席が3名在り、19名の参加で定刻7時幕を開けた。嘉村氏は岡山から、尾辻氏は戸畑からの遠路ご参加を頂いた。

幅広い年代に亘り面識のない会員も居られるので、先

ずは、簡単な自己紹介から初めて頂いた。

小一時間はかかりそうなので、途中で燃料補給、岩本先輩(カ24)の音頭で乾杯！以後はさらに口も滑らかに、時には茶々も入りスムーズに進行した。

次いで、嘉村氏より「流星14号」の収支報告、15号の発行予算、OB会の今後のあり方等について説明の後懇談に入った。定刻の20時を過ぎても話は尽きなかったが、あえて廣田先輩(電29・OB会会長代行)にゞをお願いしてお開きとした。内8名が留年、場外の補習授業に流れて行った。

出席者: カ24岩本 電29廣田 鉦30中島 鉦31河相  
機31藏満 化32丸山・川崎 機33小堀・中村・古屋  
化33嘉村 機36佐伯 電38栗本 化39浜田

制40木田・六代 子46中野 2機54坂田 子57尾辻  
(敬称略)



関東地区OB会 03. 3. 28

— 地区報告 —

中京地区自動車部OB会

地区幹事 中野 (キ25)

平成15年3月29日(土)、12:00~15:00 メルパルク名古屋において、中京地区自動車部OB会が行われた。

当地区OB会が関東地区OB会の翌日という、急な日程の設定で、OB各位の参加も大変であろうと心配したが参加11名のかんりの盛況であった。

自動車部のOB会ではあるが名古屋地区明専会の山崎又一(ツ25)支部長にもご参加いただいた。

始めに嘉村氏より事務報告などがあり会食に移った。自己紹介、近況報告、在部中の思い出など披露した後、OB会の今後のあり方などを話し合った。

山崎支部長からは明専会でも次第に参集する会員が少なくなりゴルフのコンペや、将棋、囲碁など趣味を同じくするものが集まりやすい工夫が必要だとのご示唆があった。OB会の目的、行事、明専会との関係の明確化や、会員資格も見直し、自動車産業に関わっている工大OBを積極的に勧誘してはと言う意見もあった。

また自動車部在部中の苦楽の昔話をする雰囲気はどうしたら作れるか。4年間の部活動の中で前後7年の面識しかない中でこうして、OB会で集まっても実際初めてお会いするOBも多い。今後さらに集まる機会を増やして自動車部OB会を発展させたい。などの意見や、現役自動車部への援助のあり方にも意見が出された。

地区役員や世話役を増やして世代ごとのつながりを深めたらどうかという意見があり、本多OB(化35)を、次期副

幹事、山本正(制46)、西(制50)、小川(機61)の3人が実行委員として地区OB会を盛り上げていくことになった。地区幹事については人事一新を提案したが、乞われて留任することになった。

九州で総会が開かれるとのことだがこうした総会も各地区持ち回りにするのも一つの方法と考えるのがいかなものだろうか。

【参加者・敬称略】 山崎 (ツ25) 原田 (機33)  
嘉村 (化33) 本多 (化35) 高橋 (電38)  
山本 (制46) 西 (制50) 永田 (制52)  
近藤 (制54) 小川 (機63) 中野 (キ25)



中京地区OB会 03. 3. 29

「部誌流星」バックナンバーのご案内

昭和41年創刊の部誌「流星」を平成16年夏頃までにコピー製本による復刻版を作成する予定です。創刊号~12号までのセットで1万5千円前後、各号一冊1,500~2,000円で頒布出来る予定です。ご希望の方は編集部嘉村まで申し込んでください。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

## 責善会自動車部OB会総会召集について

OB会会長代行 廣田 (電29)

OB会会則10条に基づき、平成15年自動車部OB会総会を下記の場所・日時にて行います。

会員各位には万障繰り合わせの上ご参集ください。  
なお都合で欠席される会員は委任状をお送りください。

お知らせとお願い

### 平成15年自動車部OB会総会のお知らせ

日時 平成15年11月23日(日)  
午後4時より 総会  
午後5～7時 懇親会

場所 北九州市小倉北区浅野小倉駅内  
コクラ・ステーションホテル7F  
レストラン ドウ・ラ・ガール  
(ホテル専用のエレベーターが便利です)  
TEL 093-512-0376

会費 8,000円(当日受付にて)

#### ホテルの割引

コクラ・ステーションホテルにお泊まりの際は割引があります。(OB会参加の方、同伴の方限り)

#### 二次会について

- ① 当日同じ会場で プラス3,000円 ～9時まで
- ② 近くのカラオケ屋が同期会などにご利用できます。幹事役の方は早めにご連絡ください。準備会の方でも予約できます。おひとり2,000円から

#### オプション

工大祭(11/22~24)・飯塚キャンパス・若松キャンパス見学など、一定数のご希望があればジャンボタクシー、マイクロバスなどツアーを設定します。早めにご連絡ください。

※同封のはがきにて10月18日までにご回答ください。

「出席」で回答したあと、都合で欠席される場合は3日前(11/20)までにお知らせください。

## 自動車部OB会総会準備会

準備会幹事 前田 (鉦32)

流星記念号(147ページ)によると昭和42年1月14日、自動車部部室で第1回OB会総会が開かれた。その際5名のOBと現役生が集まり規約もできたと記されている。

以後、各地でのOB会は開かれたが総会と称するものは開かれていないと思う。岡山の嘉村氏の提案でその準備会が平成15年5月24日、小倉リーセントホテルで行われた。

準備会では、まず日時、会場、規模(予算・来賓・その他)が話し合わせ、つづいで総会を成功させるための取り組みなど検討した。

総会では、九州地区のOB会が永いあいだ開かれていないので、九州地区OB会を兼ねてはという考え方もあったが、総会はいくまで総会として行う方がよいということになり、九州地区のOBにはぜひ積極的に参加して頂こうと言うことで意見が一致した。

準備会の役員について当日参加の中で最年長の私が推されたが、九州地区自動車部OB会の幹事でもある石飛先輩(ヤ22)に後日お願いし準備会会長を引き受けていただいた。

総会の詳細は別掲するが当日準備会に参加した全員が総会準備会の世話人として総会成功に尽力することになった。また当日事情で参加できなかったOBにも日頃連絡のあるなかまにも働きかけを行って貰うよう要請した。

会場予定の小倉駅ビル内、コクラ・ステーションホテルの7F「ドウ・ラ・ガール」との契約もすみあとはOBの多数の参集を心からお願いするのみです。

参加者・敬称略 嘉村 (化33) 吉武 (鉦39)  
伊東 (子44) 桂 (設生h9m) 前田 (鉦32)  
(委任状12通)

# 決 算 報 告

OB会事務担当 嘉村 (化33)

OB会基本会計 03.9.1

収 入	支 出
会費103名 OBからカンパ 特別号会計より (特別号頒布代などカンパの一 部より基本会計へ繰入)	流星14号経費 弔慰金送金手数料 一般通信費 準備会通信費 15号準備資金 通信予備費

手元現金  
口座残高  
資金計

資金内訳: 基本会計  
現役カンパ預かり

「流星14号」収支明細 03.1.7

収 入	支 出
基本会計より 8/6 1/3	印刷製本代 郵送費・切手 糊付きポリ袋 追加発送費
111,567	

「流星15号」予算

収 入	支 出
基本会計資金 現役カンパから 未収会費その他	印刷製本費 郵送費・切手 糊付きポリ袋

—お礼— 「流星14号」でお願いしたところ、寺田 氏ご遺族へのご芳志が6万4千円寄せられました。ご遺族へお送りしたところ、ご丁寧なお礼状を頂きました。ご協力有り難うございました。

—資料—

## 思い出のアルバム

提供: 六代 (制40)



## 自動車部OB会員名簿

◇印OB会費済

科	年	氏名	郵便番号	住 所	電話番号
キ	17	豊田			
キ	18	芳賀			
キ	18	馬場			
キ	18	山本			
キ	19	佐野			
テ	19	山本			
キ	20	星子			
テ	20	平位			
コ	21	渡辺			
キ	22	上妻			
テ	22	立松			
ヤ	22	石飛			
キ	23	大田			
キ	23	大野			
キ	23	紀田			
キ	23	坂本			
キ	23	舛谷			
カ	23	青木			
テ	24	森山			
カ	24	岩本			
キ	25	島崎			
キ	25	白石			
キ	25	中野			
キ	25	松尾			
テ	25	別所			
コ	26	松田			
キ	26	後藤			
キ	26	塚田			
キ	26	窪山			
テ	26	川崎			
テ	26	後藤			
機	28	山田			
冶	28	島			
機	29	城			
機	29	山田			
電	29	廣田			
鉦	30	中島			
鉦	30	渡辺			
機	31	河相			
機	31	古場			
機	31	藏満			
鉦	32	前田			
機	32	楠田			
電	32	安光			
冶	32	笠原			
化	32	川崎			
化	32	丸山			
鉦	33	斉藤			
機	33	池田			
機	33	小堀			
機	33	中村			
機	33	原田			
機	33	古屋			
電	33	川村			
電	33	松吉			
冶	33	久保	田		
化	33	柏木			
化	33	嘉村			
化	33	林			

科	年	氏名	郵便番号	住 所	電話番号
機	:34	塩谷			
機	:34	富田			
化	:34	白橋			
鈦	:35	信国			
機	:35	進藤			
化	:35	本多			
化	:35	山口			
鈦	:36	香月			
鈦	:36	飯田			
機	:36	木村			
機	:36	佐伯			
機	:36	向田			
電	:36	谷岡			
電	:36	久富			
機	:37	木島			
電	:37	小野			
電	:37	木村			
冶	:37	門司			
化	:37	山田			
機	:38	野口			
電	:38	犬塚			
電	:38	栗本			
電	:38	高橋			
電	:38	益田			
電	:38	増田			
化	:38	花田			
化	:38	宮原			
鈦	:39	吉武			
機	:39	砂本			
機	:39	中原			
機	:39	三隅			
機	:39	宮崎			
機	:39	横田			
機	:39	米倉			
電	:39	田中			
電	:39	松本			
金	:39	小宮			
金	:39	友永			
化	:39	浜田			
機 <sup>2</sup>	:40	大庭			
電	:40	石原			
電	:40	橋			
化	:40	梅山			
制	:40	木田			
制	:40	六代			
開	:41	西岡			
機	:41	金児			
金	:41	甲村			
金	:41	山田			
電	:42	芳賀			
化	:42	尾崎			
制	:42	市丸			
機	:43	木庭			
電	:43	宇塚			
電	:43	長澤			
電	:43	山本			
金	:43	中島			
金	:43	高崎			
化	:43	森永			
制	:43	山根			
機	:44	小笠原			



科	年	氏名	郵便番号	住所	電話番号
機	44	掛水			
機	44	鶴長			
機	44	松原			
機	44	渡辺			
電	(44)	藤田			
電2	44	熊本			
子	44	井上			
子	44	伊東			
開	45	八木			
機	45	釘宮			
化	45	柴田			
化	45	田中			
子	45	坂本			
機	46	佐藤			
機	46	檜原			
機	46	山本			
電	46	新開			
電2	46	柚			
金	46	古河			
金	46	鞍馬			
制	46	山本			
制	46	福永			
子	46	野見山			
子	46	中野			
子	46	細川			
化	47	川越			
化	47	森田			
制	47	鳥飼			
機	48	長尾			
機	48	浜田			
機2	48	古本			
加	48	井上			
金	48	大庭			
加	48	高見			
制	48	泡田			
子	48	小泉			
子	48	平松			
子	48	村上			
機	49	近藤			
機	49	時松			
機	49	堀川			
機2	49	山地			
電	49	佐藤			
電	49	山崎			
化	49	刀禰			
制	49	河野			
開	50	吉川			
機	50	牛島			
機	50	佐伯			
機	50	田中			
機	50	溝尻			
金	50	鳥越			
加	50	首藤			
加	50	中西			
化	50	畑中			
子	50	西			
子	50	浅野			
情	50	晴田			
機	51	高橋			
加	51	白倉			
開	52	松本			

科	年	氏名	郵便番号	住	所	電話番号
機	52	石田				
機	52	坂井				
機	52	中野				
金	52	嶋田				
加	52	板井				
制	52	永田				
子	52	野瀬				
金	53	安永				
情	53	八木				
開	54	潮崎				
機	54	國栖				
機	54	三宝				
機	54	坂田				
機	54	榎本				
機 <sup>2</sup>	54	舛重				
機	54	山下				
化	54	四辻				
制	54	近藤				
子	54	西原				
機	54	早田				
機	55	石田				
機	55	松元				
機	55	中村				
金	55	孝橋				
制	55	太田				
子	55	光成				
情	55	網田				
環	55	福川				
機	56	岩尾				
機	56	大原				
機	56	島原				
機	56	藤本				
電	56	太田				
加	56	平田				
化	56	須藤				
機	57	山口				
開	57	大島				
子	57	尾辻				
子	57	川村				
子	57	白水				
子	57	中村				
開	58	片岡				
制	58	島村				
子	58	前田				
開	59	友田				
機	59	近藤				
機	59	津曲				
機	59	稗田				
金	59	大井				
情	59	平瀬				
制	60	森				
環	60	井上				
機	61	長木				
機	61	一瀬				
機	61	福島				
開	62	小嶺				
開	62	三角				
機	62	貞苺				
機	62	諸岡				
機	62	山本				
機	62	山田				

科	年	氏名	郵便番号	住所	電話番号
開機	63	坂口			
機	63	永富			
機2	63	小川			
機2	63	黒田			
機2	63	御領			
金	63	坂田			
金	63	高以	来		
化	63	真島			
開機	H1	河野			
機	H1	三好			
機	H1	元木			
金	H1	鶴田			
金	H1	山下			
加	H1	古寺			
制	H1	谷口			
機	H1	永瀨			
電	H2	山崎			
加	H2	藤井			
金加	H2	今泉			
機	H2	高安			
機	H3	須賀			
機	H3	竹下			
設機	H4	福田			
設機	H4	山根			
設機	H4	山本			
設機	H4	吉住			
設機	H4	内野			
設機	H5	紙谷			
機	H4	宗雲			
機	H5	林			
機	H6	白石	石山		
制	H6	谷尾	公山		
電計	H6	川口	谷尾		
設機	H7	桂	川口		
制	H7	原田	桂		
設機	H8	岡	原田		
設機	H8	小西	岡		
設機	H8	渡邊	小西		
設機	H9	小野	渡邊		
電	H9	鈴木	小野		
設機	H9	山本	鈴木		
電	H9	篠崎	山本		
設建	H9	宮城	篠崎		
設機	H10	小早川	宮城		
設建	H10	高橋	小早川		
設建	H10	遠山	高橋		
設建	H11	井手野	遠山		
設機	H11	中本	井手野		
設機	H11	中村	中本		
設機	H12	岩本	中村		
機	H13	賀村	岩本		
設智	H14	安倍	賀村		
設生	H14	柴田	安倍		
機智	H15	山之口	柴田		
場制	H15	渡邊	山之口		

特別会員(敬称略)

氏名	郵便番号	住所	電話番号
元 部長 新在 (キ9)			
" 勝原			
" 河村			
" 藤原			
" 大西			
" 加藤			
" 西川			
現 部長 原田			
顧問 徳尾			
特別会員 綿貫 (ヤ21)			
" 佐武			
" 山本			
" 香月 キ15			
" 豊福 キ15 ◇			
" 山崎 ツ25			
" 伊藤 (遺族)			

OB会役員(平成13年4月現在)

本部	関東地区	関西地区
会長代行 廣田 (電29)	幹事 松田 (テ26)	幹事 立松 (テ22)
副会長 尾辻 (子57)	副幹事 川崎 (化32)	副幹事 安光 (電32)
九州地区	中京地区	中四国地区
幹事 石飛 (ヤ22)	幹事 中野 (キ25)	幹事 上妻 (キ22)
副幹事 斉藤 (鉦33)	副幹事 原田 (機33)	副幹事 嘉村 (化33)

不明者

キ22田辺	機34塩谷	機37倉益	電38藤本	機39常富	電39高宗
開41ラストム	電42加藤	電42片岡	電42浜本...	金43進藤	電49宮本
機50黒瀬	機50竹村	機II51本吉	機II51竹地	金52房前	開52の場
金53江頭	子53政近	情53三浦	機II54石野田	化54西村	子54木場
機54諸橋	環54山内	制54倉地	化54松岡(帆足)	子55淵上	機56武藤
機56高須賀	環56三原	子56徳永	化56府内	情56石松	化57島中
化57石井	電57大野	電57小野	開58高橋	制58永井	機58浦田
金58広田	機59長沼	金59小川	機59那須	制60小林	機61中村
機H1近藤	機 H4山下	設機H15松尾	H5家守	機H5山口	
電情H8中澤	設機9渡辺				

物故者

コ21古江勝	キ21喜多村広利	テ21今井淳之	キ22越出(福田)保隆	キ22伊東広一	キ23久保昭夫
キ23三重野宗一	キ23田中桂三	キ24赤松和範	テ24高野聖也	カ24真那子晃一	キ25澤井慶次
キ25酒井通光	キ25溝口泰生	機28渡辺良一	電29吉田祐三	鉦32松吉勇	金36渡辺敏美
機38森光輝八郎	機II57寺田睦雄	開43伊藤東一			

編集後記

総会が近くなりました。出来るだけ多くのOBが集まっていただけることを、切に希望しております。

部誌、OB会誌を併せてから2号になりました。OB関連の記事がどうしても多くなり、現役には申し訳なく思っています。

次号は現役が主体で編集を行って貰いたいと思いますが、ラリーや、本業の学業も忙しそうで、また、OBサイドがつい手を出してしまいそうです。

次号の特集は、「流星14号」の裏表紙に写真を載せた「部車・練習車」にまつわる思い出をお寄せいただきたいと思いますが、いかがな物でしょう。ご投稿をお待ちいたしております。

発行日 平成15年10月1日  
 発行者 九州工業大学責善会自動車部  
 主将 西野  
 明専・九州工大自動車部OB会  
 会長代理 廣田  
 印刷 岡山市  
 (株)印刷工房フジワラ  
 編集発送 岡山市  
 地区副幹事 嘉村

〒703-8267 明専・九州工大自動車部OB会  
編集・発送元 岡山市 嘉村